

## 田中忠次先生を偲んで

大野 豊

秋の色濃い11月7日、田中忠次先生が静かにお亡くなりになりました。享年81歳でした。

私たち富山県の昆虫に親しみ、研究する者は深く悲しみに沈んでおります。先生は昨年第一回富山県生物学会学会賞を受賞されましたが、その事由は永年にわたり富山県の昆虫の研究をとおし本学会の発展に寄与されたことに依ります。先生は富山県昆虫同好会の創設以来会長として会の発展と会員の育成に努められ、その功績は計り知れません。富山県昆虫研究史に長く、その名を留められることと思います。

先生に長年指導を受けた者として、その業績の一端を紹介させて戴きます。

昆虫の取組みテーマがあらゆる分野に亘っていることから先生は「富山県のフェーブル」と評されていました。昆虫の種類は多く大抵の人はテーマを蝶類とか甲虫類でもカミキリムシだけと言うように絞っているのが普通です。

先生のような方は全国的にも極めて稀です。富山県の昆虫研究史を遡れば古くは江戸時代中期の百科辞典と言われる「和漢三才図会」正徳五年(1715年)には立山の蝶に関する記述が見られます。明治以降の記録では明治41年(1908)坂井憲三氏が富山県産昆虫分類目録を教育大会記録参考部(富山県教育会編)に1,115種を記録されています。その後、中村誠喜氏が1937年～1938年に全国誌である「昆虫界」に「富山県の蜻蛉目」「富山県産蝶類目録」を発表され、また、「脈翅目」「膜翅目」「蟬類」「鞘翅目」「スズメバチ科」など昆虫全般にわたり、富山県博物学会誌や「富山教育」等に発表されています。中村氏はその後、ほとんどまとまったものを発表されていないのは残念です。

田中忠次先生は1935年「富山教育」に「富山県

鱗翅目目録」として蝶類を67種、翌年に蛾類を170種を記載されています。その後、1939年に「昆虫界」に「黒部川流域産昆虫目録」(1)～(6)として「双翅目」「膜翅目」「鞘翅目」「鱗翅目」「半翅目」「毛翅目」などとあらゆる分野にわたって報告されています。

これらのデータは近年の自然環境の大きな変化の時代にあって、今では富山県では絶滅した種類もあります。先生の作られた貴重な標本はすべて先年、富山県科学文化センターに寄贈され、保管管理されています。先生は富山県の昆虫生息調査のほか、昆虫生態にも深く観察され、それらをまとめたものとして1950年内田老鶴園社より「自然に拾う」を出版されました。そこでは先生の終生のテーマである「花と虫」について興味深く書かれています。いま、戦後何回目かの昆虫ブームの様相を呈し、多くの人が昆虫に取り組んでいますがそのほとんどの人は種類の多さのみを競っており、生態に興味を示す人は少なく、先生のその研究の巾の広さに敬服します。「花と虫」については先生は近年まで根気よく調べておられ、時々々の報文はあるもののまとまったものはなく、いずれ遺稿をまとめて出版させて戴きたいと思っています。

また、1979年に富山県から依頼され全県的に調査し、まとめた「富山県の昆虫」は500ページを越える大著になりましたがその多くは先生の長年の調査記録によるものが多く当時としては全国的に高い評価を受けました。先生の昆虫に対する情熱はお亡くなりになる直前まで衰えることなく、最近書かれた文書に「今まで、蟻を調べたいと思っていたが分類が難しく手を付けられなかったが今度、日本産蟻類検索図鑑を購入したので蟻を調べたい」と書いておられたのが印象的でした。

心から先生のご冥福をお祈り申し上げます。

平成5年 師走

富山県科学文化センター収蔵の故田中忠次氏  
採集の昆虫標本について根来 尚  
富山県科学文化センター

昨年11月7日に死去された田中忠次氏は、戦前よりお亡くなりになる直前まで一貫して富山県の昆虫相の解明にあたり、まさに、富山県の昆虫と共にあった生涯であったと言える。

田中氏の採集・記録された戦前の昆虫標本は、たいへん惜しいことに、戦災で灰塵に帰したが、戦後、特に「富山県昆虫研究会」の会長として富山県からの委託をうけ、1970年代に富山県内を広く調査し、「富山県の昆虫」(1979)富山県発行に記録報告された折の昆虫標本は、その多くが、生前富山県科学文化センターに寄贈され保管されている。それらの標本について少し紹介をしておきたい。

寄贈された昆虫標本は、トンボ目から膜翅目にいたる県内から知られるほとんどの目にわたり、その点数は約2万数千点にもものぼる。

標本一点一点に丁寧に採集データの記されたラベルが付され、几帳面な性格を伺わせる。

ガ類とチョウ類は針刺しの展翅標本であるが、他のものの多くは、脱脂綿上に個体を置き、ラベルとともにビニールの小袋に封入した、田中氏独特のものである。これは、保管場所の節約と個体の破損を防ぐため、田中氏が考案されたものである。

科学文化センターでは、現在、これらの標本を少しずつ整理している。ビニール袋封入のままでは、その個体の調査がしづらく、また、黴に犯されたものや、虫害を受けたものなどのクリーニングや補修の必要から、ビニール袋から取り出し針刺し標本化を行っている。しかし、なにぶんにも個体数も多く、なかなかほかどらないのが現状である。

現在、トンボ目と直翅目および膜翅目一部の標本の整理が一応終わり、報告された記録と照らし合わせ、科学文化センターの研究報告誌上に報

告された富山県の上記各目に関する総まとめの報告に使用されている(鈴木他, 1985; 根来・瀬川, 1988; 根来, 1990)。

それらの標本整理の結果、記録報告された全ての個体が残されているわけではなく多くの個体が亡失していること、これは、田中氏が生前「虫害を受けたり、破損の著しい個体は処分した。」とっておられたことと符合する。時に採集データと記録データにちょっとした食い違いのみられる個体があること、まれに同定の誤りがみられること、しかし、記録報告された多くの個体が残されており、ほとんどの同定が正しくなされていることが判明している。

今後、富山県内の昆虫各グループについて、各専門家により徐々にまとめが行われることと思われるが、その際、田中氏の残された標本類の再調査はたいへん重要な作業となり、それによって新しい発見もあるものと思われる。

科学文化センターでは、収蔵する昆虫類について、田中氏の寄贈標本も含め、標本調査を受け入れている。また、実際これらの標本は各グループの専門家によらなければ整理も進まない。ぜひとも、故田中忠次氏採集の標本類を利用いただくよう、また、同標本類の整理にご協力をいただけるよう各位にお願いする。

## 参考文献

- 根来 尚, 1990. 富山県のマルハナバチ類. 富山県科学文化センター研究報告(13):97-105.  
根来 尚・瀬川哲夫, 1988. 富山県の直翅類(1). 富山県科学文化センター研究報告(12):37-95.  
鈴木邦雄他, 1985. 富山県のトンボ相. 富山県科学文化センター研究報告(8):1-149, 11pls.  
富山県昆虫研究会編, 1979. 「富山県の昆虫」iv +545pp., 7pls. 富山県.